

1/1

令和8年(2026年)

No.2522

毎月5・15・25日発行

広報

新宿

SHINJUKU



発行：新宿区

編集：区政情報課

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

☎ (3209)1111 FAX (3209)9900

HP <https://www.city.shinjuku.lg.jp/>

※本紙に記載の電話番号は市外局番(03)を省略しています。



撮影:新宿文化センター

新宿区長

吉住 健一

新春 対談

野村 萬斎さん

狂言師

新年、明けまして
おめでとう
ございます



新宿区長 吉住 健一

区民の皆さまには、穏やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。本年が皆さまにとって幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

令和8年の干支「午」は、力強く駆ける姿から「前進」「飛躍」「スピード感」を象徴し、物事が大きく動き出す年といわれています。

この一年、区民の皆さまとともに未来に向かつて力強く駆け抜け、誰もが住みたい、住み続けたいと思える新宿のまちづくりを全力で進めてまいります。

新年を迎えるにあたり、リニューアルした新宿文化センターで、狂言師の野村萬斎さんと対談させていただきました。萬斎さんからは、新宿とのご縁やまちの魅力に加え、伝統の継承と新たな挑戦などについてお話しいただきました。受け継がれてきた技術や精神を尊びながら、時代に応じて新しい発想を取り入れていく萬斎さんの姿勢は、伝統と革新が共存する新宿のまちづくりにも通じます。

今後も、まちの中に息づく歴史や文化を大切にしながら、新たな課題に果敢に挑戦し、未来へつながる新宿のまちを築いてまいります。

今年は、区が平和都市宣言をしてから40年を迎えます。終戦から80年以上が経ち、戦争体験者が減る中、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現を願うこの宣言の理念を、次世代にしっかりと継承していくことが重要です。3月には、平和の尊さを区民の皆さんと共に有するための記念事業を開催するほか、戦争体験談集のデジタル版を作成し、若い世代にも身近に触れてもらえるように広く発信していきます。このほか、さまざまな平和啓発事業を通じて、平和の理念を皆さんとともに育み、次世代へ確かな形でつないでまいります。

区は、平成19年に「新宿区基本構想」を策定し、「めざすまちの姿」を「新宿力」で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」と定めました。今年から新たな基本構想と総合計画の策定に向けて、区民の皆さんのご意見を幅広く伺い、共に描いていきたいと考えています。ぜひ、ご協力をお願い申し上げます。

本年も現場・現実を重視し、区民の皆さんのお聴きしながら、課題の解決に取り組み、新宿のまちの発展に力を尽くしてまいります。引き続き、区政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



古いものと新しいものが共存しながら進化するまち

区長：萬斎さんは、ここ新宿文化センターでは何度も舞台に立たれていますし、矢来能楽堂や東京グローブ座、秋に能が行われる新宿御苑など、区内のさまざまな劇場等で活躍されていますね。新宿にはどのような印象をお持ちですか。

萬斎：稽古場が近いものもあって、新宿は若い頃から馴染み深いまちです。中でも東京グローブ座は、20代の頃にシェイクスピアの舞台にも立った思い出の場所。同じ古典とはいえ、狂言とシェイクスピアという異なる世界に関わることで自分の視野が広がり、イギリスへ留学するきっかけになりました。その頃はバブル期ということもあって、プライベートでは先輩に連れられて歌舞伎町のまちに繰り出したりもしましたよ。遅くまで飲んで、次また一軒などと。修業中でしたので、まちに出てさまざまな人を観察することが社会勉強になりました。当時もエネルギーにあふれた若者など、さまざまな人が新宿には集っていましたね。多様な人間を演じるのが狂言の世界なので、演じる上で糧になりました。

区長：今でもプライベートで新宿にいらっしゃいますか。

萬斎：はい、特に、素敵なお店も多い神楽坂にはよく食事に行きます。新宿は、活気があるエリアや閑静な住宅街など、エリアによってさまざまな色合いや表情がありますね。

区長：新宿は10分歩くと全く違うまちになるといわれています。繁華街があり、商店街があって、高層ビルが建ち並ぶエリアがあり、緑があり、川がある。区としても、そうした多様なまちの表情をこれからも大事にしていきたいと考えています。

萬斎：能楽堂がある矢来町もそうですが、新宿には古い町名が残っているのがいいですね。

区長：昔、町名を集約した住居表示をしようとした時に、住民から「昔の町名を残してほしい」という声が上がりました。古いまちの名前が残ったことで、町会や自治会が今も存続していて、お祭りの時期には町内ごとに神輿が出ます。移住してきた若い方は「ここは下町なんですか？」と驚くほど、地域のコミュニティが色濃く残っているんです。

古い町名はその地域の記憶であり、アイデンティティなんですね。

萬斎：新宿は古きものと新しいものとが共存するまちなんです。変えていいことと変えちゃいけないこと、というのはやはりあって、狂言もまちづくりも同じですね。携わる人のセンスによるところも大きいですが、アイデンティティを失わなければ、伝統や歴史を継承しながら時代の変化に大いに挑戦できると思います。

区長：やはり、そこに住んでいる人や、そこで働いている人たちがそのまちに愛着が持てなければ、まちの歴史や文化をきちんと残していくことういう意識にはつながらないと思いますので、まちの成り立ちを皆さんにも意識してもらえるようなまちづくりをしていきたいと考えています。

萬斎：私は古典芸能の世界を今の時代にどう届けるべきかを日々模索しているので、とても共感できます。

ジャンルを越えた活動が視野を広げる

区長：萬斎さんは650年以上続く狂言に携わる一方で、ドラマや映画など、他の分野にも積極的に関わっていらっしゃいます。映画『シン・ゴジラ』では、ゴジラの動きを担当されていました。ゴジラは歌舞伎町のビルに巨大なモニュメントがある新宿の顔でもあり、区が特別住民票を交付して新宿観光特使にも任命している国際的なキャラクターです。

萬斎：ゴジラの初代スーツアクターの中島春雄さんが「ゴジラの動きは能に近い」とおっしゃっていたそうで、それをご覧になった監督から依頼されたんです。『シン・ゴジラ』のシンは「新」「真」もあるし、「神」もあるということで、私は狂言の動きとともに龍のように手の平を上に向かってポーズを考えて神話的なイメージを加えました。

区長：さまざまなチャレンジをされることで

ご自分の視野を広げる一方、狂言に興味を持つてもらうきっかけにしたいという思いもあるのでしょうか。

萬斎：他者を知ることではじめて己の現在地が分かることもあります。何百年続く古典だ、伝統だといっても、それをご覧になるのは現代を生きる方々ですから、その方々が興味を持って見てくれないと、そこで途絶えてしまいます。まちも、いくら歴史があるといつても住む人がいなくなったらなくなってしまいますよね。ですから、時代の空気を読みながら、例えば漫画を狂言に取り入れたり、フィギュアスケーターとコラボレーションしたり、より実感をともなって見ていただけるような工夫をしています。とはいって、ただ分かりやすくすればいい訳でもなく、「魂を抜かれるような美しさ」を芸術というのなら、その「美」というものはなくしてはいけない。狂言は「笑い」の要素も大きいのですが、父(野村万作さん)からの「美しくあれ」という教えもあって、そこは一つの気概として守りたいと思っています。

区長：そうした思いが、また次の世代へと受け継がれていくのでしょうか。

生まれ変わった劇場で新しい年をスタート

区長：新宿文化センターは改修工事を経て、昨年10月にリニューアルオープンしました。

萬斎：この劇場は、ドイツの振付師ピナ・パウシュの現代舞踊を見たり、イタリアの仮面喜劇コンメディ・デッラルテを妻と見たり、観客としてもたくさん思い出があるのでリニューアルは感慨深いですね。生きていってよかったなと思えるのは、生の芸術に触れる瞬間だと思うので、ぜひリニューアルした劇場に来ていただきたいです。

区長：萬斎さんには、1月31日、リニューアルオープンを記念した「新春名作狂言の会」にもご出演いただきます。

萬斎：野村家と茂山家の共演という形で、野村家からは私と父・万作、息子の裕基が出演します。私が演じる独舞「MANSAIボレロ」は、狂言の「三番叟」という舞踊曲の繰り返すリズムを基に、ラヴェルの「ボレロ」と融合したらどうなるのかという試みです。「三番叟」は豊穣を祈る舞という意味があり、この新しい舞台にふさわしい曲ですので、新年にお届けできるのが楽しみです。

狂言の基本にある「笑い」は子どもたちにも分かるものだと思います。いま、子どもたちがエネルギーを発散する場が社会の中で少なくなっているので、ぜひ狂言の舞台を見て、みんなで笑って発散してもらいたいですね。

区長：さまざまなジャンルを受け止める柔軟性のある劇場ですので、伝統と挑戦を両立できる場としてこれからも活用していただければと思います。ところで今年はどんな年にしたいですか。

萬斎：還暦を迎える節目の年なので、少しはりきっていこうかなと思います(笑)。人生100年といわれる時代ですから、60歳はまだそこまで年齢を意識することもないかとは思いますが、老齢の人物を演じられるなど芸の幅が広がるのではないかと期待しています。



狂言師
のむら まんさい
野村 萬斎 さん

1966年生まれ。重要無形文化財総合指定者。「狂言ござる乃座」主宰。東京藝術大学音楽学部卒業。祖父の故・六世野村万蔵と父・野村万作(人間国宝)に師事。3歳で初舞台を踏み、国内外で狂言の普及に携わる一方、新たな創造活動にも意欲的に取り組む。

650年以上続く狂言の魅力を現代に伝えるべく、幅広い活動に取り組む狂言師・野村萬斎さん。
伝統を受け継ぎながら、ジャンルを越えて新たな挑戦を続けるその姿勢は、どこかまちづくりとも似ているようです。



世田谷パブリックシアター開場20周年記念公演
「MANSAIボレロ」より(撮影:細野晋司)

新宿 この一年

掲載している行事等は予定です。変更になる場合もありますので、ご了承ください。

1月 1日歳旦祭=葛谷御靈神社。

1日から新宿山の手七福神詣で

○弁財天=巖嶋神社○恵比寿=稻荷鬼王

神社○福禄寿=永福寺○大黒天=経王寺

○毘沙門天=善國寺○布袋尊=太宗寺

○寿老人=法善寺。干支祈願=稻荷鬼王

神社。七福神まつり=成子天神社。5日初

弁天祭=巖嶋神社。8日湯花神事=花園神

社。12日はたちのつどい=京王プラザホテル同園管理事務所。13日おびしゃ祭

=葛谷御靈神社、中井御靈神社。15日・16日エンマ大王開帳=太宗寺。18日牛

込簾笥地域まつり=牛込簾笥地域センター同センター。25日新宿シティハーフマラソン

・区民健康マラソン=MUFGスタジアム(国立競技場)ほか同新宿未来創造財団。28日円空仏公開(毎月28日午後1時~3時)=中井出世不動堂

同文化観光課文化資源係

2月 1日初午祭=赤城神社。3日古式鬼追いの儀=鎧神社。節分祭=神楽

坂若宮八幡神社、須賀神社、諏訪神社、善國寺、月見岡八幡神社、筑

土八幡神社、中井御靈神社、成子天神社、花園神社、氷川神社。節分追儺祭=

稻荷鬼王神社。追儺式=穴八幡宮。星祭=宗柏寺、放生寺。4日節分祭=熊野

神社。11日建国祭=花園神社。13日茶

ノ木稻荷神社初午祭=市谷龜岡八幡宮。

初午祭=出世稻荷神社。15日午祭=月

見岡八幡神社。ねはん会=宗柏寺。20日

~22日染の小道=中井駅周辺同「染の

小道」実行委員会。21日男女共同参画

フォーラム=四谷区民ホール同男女共

同参画課



新宿シティハーフマラソン

3月 3月新宿中央公園春まつり=新宿中央公園同園管理事務所。

1日地域防災講演会=四谷区民ホール同危機管理課地域防災係。

3日ひなまつり=赤城神社。8日箱根山駅伝大会=都立戸山公園・東戸山小学校

同箱根山駅伝大会実行委員会。四谷ふれあい祭り=四谷地域センター同セ

ンタ。14日落合第一地域センターまつり同センター。15日平和のつどい=

新宿文化センター同総務課総務係

4月 上旬四谷花まつり(稚児行列など)=本性寺。5日・8日花まつり=

宗柏寺。8日花まつり=経王寺。11日レガスまつり=新宿コズミック

センターほか同新宿未来創造財団。中旬ばたん観賞=薬王院。18日本尊御

開帳=放生寺。はなしすめの祭=稻荷鬼王神社。下旬つつじまつり=皆中稻荷

神社。下旬~5月上旬こいのぼりの飾りつけ=西戸山公園ほか同区政情報課

広報係

5月 5日芸術体験ひろば同文化観光課文化観光係。8日例大祭=東山藤稻

荷神社。16日大久保地域センター五月まつり同センター。22日~

25日例大祭=花園神社。25日例大祭=西向天神社

6月 5日~8日例大祭=須賀神社。6日国際都市新宿・踊りの祭典=新宿

文化センター同センター。7日新宿子育てメッセ=新宿コズミック

センター同子ども総合センター子育て支援係。中旬落合第二地域センター開

館記念イベント同センター。30日大祓=花園神社。大祓祭=成子天神社。

大祓式=赤城神社、穴八幡宮、稻荷鬼王神社、熊野神社



染の小道

7月 7月~8月新宿中央公園水と緑のイブニングバー=新宿中央公園

同園管理事務所。7月~9月新宿中央公園ジャブジャブ池の開設=新宿中央公園同園管理事務所。上旬山開き=月見岡八幡神社。「社会を明るくする運動」パレード・式典=新宿通り同子ども家庭課企画係。15日・16日エンマ大王開帳=太宗寺。中旬~8月中旬神田川親水テラスの開放同みどり公園課みどりの係。22日~25日神楽坂まつり(ほおづき市・阿波踊り大会)同神楽坂通り商店会事務所。25日新宿エイサーまつり=新宿通りほか同新宿駅前商店街振興組合



新宿エイサーまつり

8月 8月新宿中央公園夏まつり=新宿中央公園同園管理事務所。1日フ

レッシュ名曲コンサート=新宿文化センター同センター。15日例大祭=市谷龜岡八幡宮。下旬例大祭=諏訪神社。

9月 9月~11月生涯学習フェスティバル=新宿文化センターほか同宿

文化センター。5日例大祭=巖嶋神社。5日・6日例大祭=月見岡八幡神社。中旬例大祭=神楽坂若宮八幡神社、葛谷御靈神社、氷川神社。13日・14日

例大祭=鎧神社。15日例大祭=穴八幡宮、筑土八幡神社。18日例大祭=稻荷鬼王神社。19日・20日例大祭=赤城神社、熊野神社。25日例大祭=成子天神社。

26日山鹿素行追悼会=宗參寺。26日・27日例大祭=中井御靈神社。27日例大

祭=皆中稻荷神社。下旬UTCステージ&たんす緑と花のまちづくりフェア=牛込簾笥地域センター同センター。戸塚地域センターまつり同センター

10月 上旬放生会=市谷龜岡八幡宮。1日~31日大新宿区まつり同文化

観光課文化観光係。12日放生会=放生寺。高田馬場流鏑馬=穴八幡宮。新宿スコレク=新宿コズミックセンターほか同新宿未来創造財団。14日お

会式=善國寺。15日お会式=宗柏寺。17日例大祭=出世稻荷神社。18日ふれあい

フェスタ=都立戸山公園同文化観光課文化観光係。19日・20日恵比寿祭=稻荷鬼王神社。下旬榎町地域センターまつり同センター。若松ふれあいまつり=若

松地域センター同センター。四谷文化祭・リサイクルフェア=四谷地域センター同センター



ふれあいフェスタ(ステージ)

11月 上旬国史跡「林氏墓地」の公開同新宿歴史博物館。11月~9年2

月28日新宿歌舞伎町区役所通りイルミネーション同NPO法人新宿歌舞伎町区役所通り3Aの会。8日ここ・からまつり=新宿ここ・から広場同子

ども総合センター管理調整係。酉の日(7日・19日)大酉祭=皆中稻荷神社、熊野

神社、須賀神社、成子天神社、花園神社ほか。中旬落合第二地域センターまつり同センター。新宿かしわまつり=柏木地域センター同センター。23日新嘗

祭=赤城神社、穴八幡宮、稻荷鬼王神社

12月 上旬歳末助け合い運動=新宿通り同本性寺。6日角筈地域セン

ターまつり同センター。20日もちつき大会=市谷龜岡八幡宮。

22日冬至祭=穴八幡宮、放生寺。30日大祓式=熊野神社。31日大祓=花園

神社。大祓祭=成子天神社。大祓式=穴八幡宮、稻荷鬼王神社。下旬大祓式=赤城神社

所在地・問合せ先

区・官公署等の問合せ先は、新宿区ホームページでご案内しています



神社・寺等

- あ ●赤城神社(赤城元町1-10)☎(3260)5071
- 穴八幡宮(西早稲田2-1-11)☎(3203)7212
- 市谷龜岡八幡宮(市谷八幡町15)☎(3260)1868
- 巖嶋神社(余丁町8-5)☎(3351)5875 ●稻荷鬼王神社(歌舞伎町2-17-5)☎(3200)2904 ●永福寺(新宿7-11-2)☎(3203)8910

か かいかく

- 皆中稻荷神社(百人町1-11-16)☎(3361)4398
- 神楽坂若宮八幡神社(若宮町18)☎(3269)7925
- 経王寺(原町1-14)☎(3341)1314 ●葛谷御靈神社(西落合2-17-17)☎(3951)8512 ●熊野神社(西新宿2-11-2)☎(3343)5521

さ さく

- 出世稻荷神社(余丁町12-18)☎(3351)5875
- 須賀神社(須賀町5)☎(3351)7023 ●諏訪神社(高田馬場1-12-6)☎(3209)3835 ●善國寺(神楽坂5-36)☎(3269)0641 ●宗參寺(弁天町1)☎(3209)8514 ●宗柏寺(榎町57)☎(3268)6887

た たいく

- 太宗寺(新宿2-9-2)☎(3356)7731 ●月見岡八幡神社(上落合1-26-19)☎(3368)3939 ●筑土八幡神社(筑土八幡町2-1)☎(3260)2701

な なりょう

- 中井御靈神社(中井2-29-16)☎(3950)4138
- 中井出世不動堂(中落合4-18-16)●成子天神社(西新宿8-14-10)☎(3368)6933 ●西向天神社(新宿6-21-1)☎(3351)5875

は は

- 花園神社(新宿5-17-3)☎(3209)5265
- 東山藤稻荷神社(下落合2-10-5)☎(3951)3646
- 氷川神社(下落合2-7-12)☎(3951)3646 ●放生寺(西早稲田2-1-14)☎(3202)5667 ●法善寺(新宿6-20-16)☎(3351)4080 ●本性寺(須賀町13-3)☎(3351)4877

や やうい

- 薬王院(下落合4-8-2)☎(3951)4324 ●鎧神社(北新宿3-16-18)☎(3371)7324

ら らい

- 林氏墓地(市谷山伏町1-15)